



田中琴美さん(6年)

わたしは、運動会での一輪車が心に残りました。できない技もありましたが、みんながコツを教えてくれたので本番で成功しました。

中学生になったら小学生でできなかったことをできるようにになりたいです。



中野美蘭さん(1年)

小がた小学校の二年生になったら、ともだちがいっぱいます。だからいっしょにあそびたいです。わたしのすきないろおにやかくれんぼをしたいです。かけざんとわりざんもしたいです。



中田百桃さん(3年)

思い出は、運動会で一りん車をしたことです。初めてアイドリングが成こうしたし、うまくなったと感じたからです。新しい小学校に行っても、友達をたくさんつくって、なかよく遊びたいです。



松本玲奈さん(6年)

私の穂仁原小での思い出は、ふれあい祭りです。いままで経験した事なかったオペレッタ、いもようかん作り、その他にも様々な事を学びました。中学校に行っても穂仁原小の事を忘れないで大人になっていきたいです。



大人になってもきっと忘れない。

これまで、約1,200人が卒業した穂仁原小学校。現在は5人の子どもたちが、先生のお愛、地域の愛に包まれながら育っています。子どもたちに学校での思い出を聞いてみました。



田中成美さん(6年)

一番の思い出は、毎年秋にあるふれあい祭りで、私が送ったはがきを、にぎって持って来てくれた地域の方がいた事です。穂仁原小学校だからできた地域とのふれあいを、中学校でも生かしていきたいです。



ありがとう 穂仁原小学校

創立から現在まで

木野川のせせらぎや、四季を通じて色とりどりに変化する美しい山々に囲まれた自然豊かな川手地区に、明治15年、穂仁原小学校は創立しました。
穂仁原小学校は、開校以来、明治、大正、昭和、平成の130余年の長い間、名称を変え、改築を行いつつも地域に親しまれ、川手地区の教育・文化の拠点として、多くの歴史を積み重ねてきました。

川手地区との合同運動会やふれあい祭りなど、地域と学校が一体となり子どもたちを育てていく環境の中で、穂仁原小学校で学ぶ子どもたちは、豊かな心を持ち、生き生きと成長してきました。

また、代々受け継がれてきました地域特産の手すき和紙で作った紙太鼓の演奏、手すき和紙作りをテーマにしたオペレッタ、そして、自分ですいた和紙で作る世界で1枚の卒業証書など、地域の伝統を取り入れた教育活動を通して、「川手を愛し、川手を誇りに思い、より良くしていく心」を育んできました。

問い合わせ 総務学事課 ☎2134

穂仁原小学校・阿多田小学校閉校記念特集 お疲れさま、そして…

創立131年を数える穂仁原小学校。

そして、創立140年の時を刻んだ阿多田小学校は、それぞれ閉校の日を迎えます。歩んできた年月だけ歴史を積み重ねた両校。お疲れさま、そしてありがとう。



(上左)自分たちですいた和紙で卒業証書を作る子どもたち。一生の宝物だ。
(上右)和紙で作った、紙太鼓を練習する児童。
(左)なつかしい旧校舎。



131年目の卒業

明治15年の創立から131年間。これまで、約1,200名の子どもたちが、学び、巣立っていた穂仁原小学校。現在は全児童数が5名に減少し、平成24年度をもちまして歴史に幕を閉じるようになりました。

— interview —



穂仁原小学校 校長 石井憲幸さん

自らの志を目指して学んでほしい

穂仁原小学校の子どもたちは、木野川の四季とともに成長してきました。4月からは、穂仁原小学校で学んだことを活かして、それぞれの新たなステージで、自らの志を目指して学んでほしいと思います。ふるさと川手を大切にできる人になってください。



穂仁原小学校 PTA会長 中田美穂さん

人を思いやる心をこころで学びました

目を閉じると穂仁原小学校で過ごした日々が鮮やかによみがえります。粘り強く諦めない心、人を思いやる心をここで学びました。子どもたちも、さまざまな経験をともにさらに成長してくれることを願っています。閉校はとても残念で寂しいですが、穂仁原小学校は私たちの心にいつまでも生き続けます。



島津美夢さん (5年)
げきやうた
心に残る
たなばたまつり

いつまでも 心に残る日々

阿多田島で元気にのびのびと育つ、
14人の子どもたち。その子どもたち
に今の思いを川柳にしてみました。



宮下 藍くん (6年)
六年間
島中笑った
運動会



島津 京さん (4年)
阿多田小
百四十年
おつかれさま



向井琉偉くん (4年)
いつまでも
阿多田小とは
家族だよ



浜本一樹くん (4年)
図書の本
一しょに小方へ
いきましょう



浜本ひなさん (5年)
いつまでも
笑顔がたえない
十四人



島津陽希くん (2年)
マラソンを
月水金で
走ります



大井蔵之介くん (2年)
合しゅくは
とても楽しい
思い出だ



宮下里未さん (3年)
来年は
フェリーで行くぞ
小方まで



浜本寧音さん (3年)
阿多田小
給食一番
大すきだ



島津 哉くん (1年)
阿多田小
はじめのいっぽは
この学校



向井芽依さん (2年)
一輪車
みんなとつなぐ
大きなわ



大井花音さん (2年)
ほうりゅうで
大きくなってね
魚たち



宮下 煌くん (2年)
阿多田小
バレーでサーブ
アウトまで



(上)なつかしい旧校舎。
(下)阿多田島マラソン大会。大会は地域の人と一緒に盛り返る。



ありがとう 阿多田小学校

創立から現在まで

まわりを美しく澄んだ瀬戸内の海に囲まれた、自然環境豊かな阿多田島に小学校が創立されたのは明治6年。学校創立時の子どもたちは演福寺で学んでいました。その後所在地や名称を変え、校舎を改築しながらも地域・文化の拠点として今日に至りました。

4月の入学式に始まり、たくさんの方の学校行事が1年間を通じてあります。中でも運動会や七夕祭り、マラソン大会などの行事は島全体で行われ、子どもたちの成長を島全体で見守り続けてきました。

現在までに数多くの表彰も受賞しました。第六管区海上保安本部長表彰を受賞した町の掃除活動は伝統として受け継がれてきました。日本海事広報協会の主催する「ジュニア・マリン賞」に応募したときには、海などに関する阿多田島探検隊の活動レポートが小学生部門の最優秀賞に選ばれました。

昭和53年に当時の皇太子御夫妻が阿多田島を行啓されたときには、学校を視察され離島教育に深い関心を寄せられました。地域の特性を生かした学習が、郷土への誇りと自信を持った子どもたちを育ててきました。

140年目の卒業

明治6年の創立から今日までの140年の間に、多くの思い出が積み重ねられてきました。1、000人以上の子どもたちが学び、巣立っていった阿多田小学校。多い時期には120人以上の子どもたちがいた学校も、この春に閉校を迎えることになりました。

— Interview —



阿多田小学校 校長
山本竹生さん

阿多田っ子の誇りと人間としての真摯さを私は、阿多田小学校での3年間、子どもたちの表現する強さや賢さ、優しさ、そして、美しさを日々、喜び、感謝して過ごしてきました。子どもたちの一人一人のもつ力に敬意を払いたいと思います。



阿多田小学校 PTA会長
浜本祥一さん

たくさんの方にチャレンジしてほしい地域にとって大きな存在であった小学校が閉校することは残念でなりません。子どもたちにはここで学び、地域に育んでいただいたことを忘れず、今までは違う環境にもめげずに、たくさんの方にチャレンジしてほしいと願っています。

地域とのつながりへキックオフ ～専門家にできること～

問い合わせ 広島弁護士会 ☎082-228-0230

とき 3月16日(土) 14時～17時(開場13時30分)

ところ サントピア大竹

第1部 基調報告

「広島みらい法律事務所大竹支所の歩み」

滑川和也弁護士(広島弁護士会)

「岡山県北における地域ネットワークの現状と課題」

高木成和弁護士(岡山パブリック法律事務所津山支所長)

第2部 スペシャルトーク

「地域のスポーツ振興のために～子どもたちに伝えたいこと～」

語り手: 久保竜彦さん(廿日市スポーツクラブ・元サッカー日本代表)

聞き手: 井上 道弁護士(広島弁護士会)

第3部 パネルディスカッション

「地域の専門家が連携してネットワークを作ろう」

パネリスト: 高木成和弁護士(岡山パブリック法律事務所津山支所長)、酒井珠江さん(社会福祉士・広島県地域生活定着支援センター長)、西尾弘さん(社会福祉士・大竹市地域包括支援センター長)、滑川和也弁護士(広島弁護士会)

コーディネータ: 丸亀日出和弁護士(広島弁護士会)

主催 広島弁護士会

後援 大竹市、廿日市市、大竹市社会福祉協議会、廿日市市社会福祉協議会、広島県社会福祉士会



思い出を形に残す

小学校の閉校を迎えるにあたり、学校関係者や地域の人を中心に閉校記念誌を作りました。昔の写真やこれまで卒業した人の声など、さまざまな思い出が詰まっています。

【注】 左: 穂仁原小学校閉校記念誌 右: 阿多田小学校閉校記念誌



穂仁原小学校閉校式

とき 3月23日(土) 10時30分

ところ 穂仁原小学校体育館

学校への最後の感謝とお別れの日

3月で長い歴史に幕を下ろす穂仁原小学校と阿多田小学校。それぞれの学校で閉校式が行われます。閉校式では、子どもたちの最後の発表などを行う予定です。



阿多田小学校閉校式

とき 3月24日(日) 10時30分

ところ 阿多田小学校体育館